

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-146142

(43)Date of publication of application : 21.05.2003

(51)Int.Cl.

B60R 5/04

(21)Application number : 2001-349141

(71)Applicant : UCHIHAMA KASEI KK

(22)Date of filing : 14.11.2001

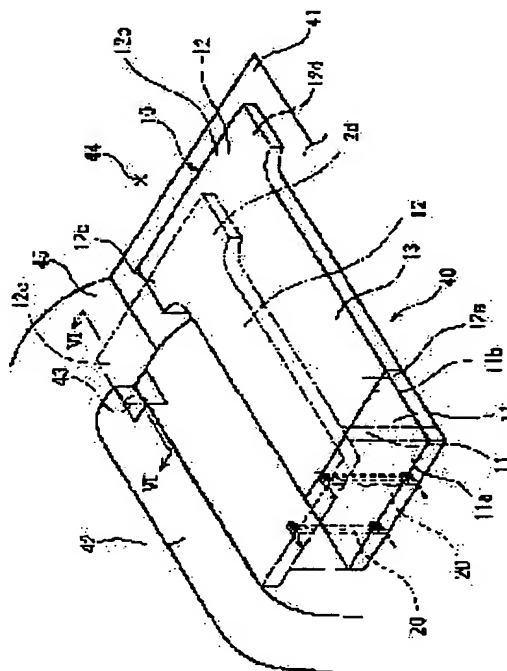
(72)Inventor : IMAI NORISHIGE

(54) DECK BOARD FOR VEHICLE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily switch a position of a deck board for a vehicle along a vertical direction in two stages.

SOLUTION: This deck board 10 is provided with a first deck board part 11 and a second deck board part 12. The first deck board part 11 and the second deck board part 12 are bendably and rotatably connected to each other. A base part 11a of the first deck board part 11 is connected in such a manner as to be capable of rising and rotating with respect to a floor 41. The first deck board part 11 and the second deck board part 12 can adopt two position states, that is, a first position state wherein they are continuously placed on the floor 41 and a second position state wherein the first deck board part 11 is rising from the floor 41 and the second deck board part 12 is positioned in a predetermined height position with respect to the floor 41. A first four-link mechanism 20 operates when the position state is switched between the first state and the second state.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 15.06.2004

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3850715

[Date of registration] 08.09.2006

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003-146142

(P2003-146142A)

(43)公開日 平成15年5月21日(2003.5.21)

(51)Int.Cl.⁷

B 6 0 R 5/04

識別記号

F I

B 6 0 R 5/04

テーマコード(参考)

Z 3 D 0 2 2

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 8 頁)

(21)出願番号 特願2001-349141(P2001-349141)

(22)出願日 平成13年11月14日(2001.11.14)

(71)出願人 000225577

内浜化成株式会社

愛知県豊田市四郷町宮下河原1番地

(72)発明者 今井 則茂

愛知県豊田市四郷町宮下河原1番地 内浜
化成株式会社内

(74)代理人 100064344

弁理士 岡田 英彦 (外4名)

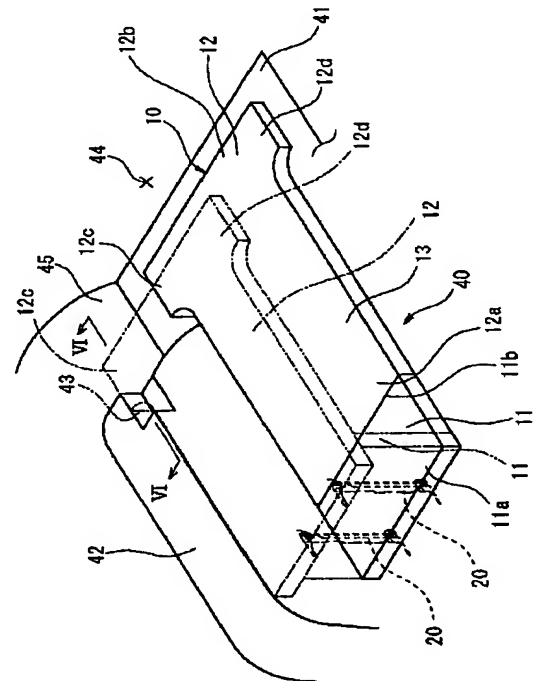
Fターム(参考) 3D022 BA05 BC09

(54)【発明の名称】 車両用デッキボード

(57)【要約】

【課題】 車両用デッキボードの上下方向の位置を2段に切り替えることが容易にできるようにすること。

【解決手段】 デッキボード10は第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12を備えている。第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12は屈折回動可能に連結されている。第1のデッキボード部位11の基部11aはフロア41に対して起立可能に回動可能に連結されている。第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12は、フロア41上に連続して載置された第1の位置状態と、第1のデッキボード部位11がフロア41に対して起立状態となり第2のデッキボード部位12がフロア41に対して所定高さ位置とされる第2の位置状態の2つの位置状態を採ることができる。前記第1の状態と第2の状態を切り替えるときに、第1の4リンク機構20が動作する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車両のフロア等の基盤部材上に配置されるデッキボードであって、

前記デッキボードは板状の第 1 のデッキボード部位と第 2 のデッキボード部位とから成り、この第 1 のデッキボード部位と第 2 のデッキボード部位は屈折回動可能に連結されているとともに、前記第 1 のデッキボード部位の基部は前記基盤部材に対して起立可能に回動連結されており、

前記第 1 のデッキボード部位と第 2 のデッキボード部位は前記基盤部材上に連続して載置された第 1 の位置状態と、前記第 1 のデッキボード部位が前記基盤部材に対して起立状態となり前記第 2 のデッキボード部位が前記基盤部材に対して所定高さ位置とされる第 2 の位置状態の 2 つの位置状態を採ることができることを特徴とする車両用デッキボード。

【請求項 2】 請求項 1 に記載された車両用デッキボードであって、

前記第 1 のデッキボード部位と第 2 のデッキボード部位との間の屈折回動可能連結および前記第 1 のデッキボード部位の前記基盤部材に対する起立可能連結は、4 リンク機構を用いて行われ、この 4 リンク機構には前記基盤部材に対する前記第 1 のデッキボード部位の起立回動に連動して前記第 1 のデッキボード部位に対して前記第 2 のデッキボード部位を前記起立回動と反対方向に強制的に屈折させる機構が組み込まれていることを特徴とする車両用デッキボード。

【請求項 3】 請求項 2 に記載された車両用デッキボードであって、

前記 4 リンク機構は、第 1 リンク部材、第 2 リンク部材、第 3 リンク部材および第 4 リンク部材を順次回動可能に連結したものであり、

前記第 1 リンク部材は前記基盤部材に固定され、前記第 2 リンク部材が前記第 1 のデッキボード部位を支え、

前記第 3 リンク部材が前記第 2 のデッキボード部位を支え、

前記第 4 リンク部材に長孔を形成し、この長孔の長手方向を前記第 4 リンク部材の長手方向とし、前記第 4 リンク部材と前記第 1 リンク部材との連結用孔もしくは前記第 4 リンク部材と前記第 3 リンク部材との連結用孔を前記長孔としたことを特徴とする車両用デッキボード。

【請求項 4】 請求項 2 に記載された車両用デッキボードであって、

前記 4 リンク機構に組み込まれる前記第 1 のデッキボード部位に対して前記第 2 のデッキボード部位を前記起立回動と反対方向に強制的に屈折させる機構は、前記第 1 の位置状態から前記第 2 の位置状態に回動操作するとき前記第 2 のデッキボード部位が前記第 1 のデッキボード部位に対して自重荷重を集中する位置を押圧するカム機

構とされていることを特徴とする車両用デッキボード。

【請求項 5】 請求項 4 に記載された車両用デッキボードであって、

前記 4 リンク機構は、第 5 リンク部材、第 6 リンク部材、第 7 リンク部材および第 8 リンク部材を順次回動可能に連結したものであり、

前記第 5 リンク部材は前記基盤部材に固定され、

前記第 6 リンク部材が前記第 1 のデッキボード部位を支え、

カムが前記第 7 リンク部材のうち前記第 6 リンク部材側端部に形成され、このカムが前記第 2 のデッキボード部位の基部を押すことができることを特徴とする車両用デッキボード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本願発明は、自動車等の車両に配置されるデッキボードに関し、特に、その上下方向の位置を容易に 2 段に切り替えることができる車両用デッキボードに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来から、車両の荷物室のフロアより高い位置にデッキボードを配設して、荷物室内にてデッキボードの上および下に荷物を積載可能にして、荷物室の荷物積載スペースを広げることが行われている。実開昭 61-122136 号公報は、このようなデッキボードの従来例を開示している。この従来例では、フロア上の所定の高さ位置にデッキボードを載置した構造が示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上述の従来例では、デッキボードをフロア上の所定の位置に載置する構造であるため、デッキボードが不要のときは、デッキボードを荷物室から取り外す必要がある。したがって、そのための作業が煩雑であるという不都合があった。また、取り外したデッキボードを他の場所に保管しなければならないという不都合があった。このため、荷物室に積載する荷物の大きさおよび量に応じて、デッキボードを使用する場合および使用しない場合を切り替えることは、何かと不都合をきたしていた。そこで、本願発明が解決しようとする課題は、車両の荷物室等に配置されるデッキボード自身の配置変更でデッキボードの上下方向の位置を 2 段に切り替えることが容易にできるようにすることである。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するため、本願の第 1 の発明は、請求項 1 に記載のとおりである。上記第 1 の発明により、デッキボードは板状の第 1 のデッキボード部位と第 2 のデッキボード部位とから成り、この第 1 のデッキボード部位と第 2 のデッキボード部位は屈折回動可能に連結されている。そして、前記第

1のデッキボード部位の基部は前記基盤部材に対して起立可能に回動連結されている。前記第1のデッキボード部位と第2のデッキボード部位は前記基盤部材上に連続して載置された第1の位置状態と、前記第1のデッキボード部位が前記基盤部材に対して起立状態となり前記第2のデッキボード部位が前記基盤部材に対して所定高さ位置とされる第2の位置状態の2つの位置状態を採ることができる。この第1の発明によれば、デッキボード自身の配置変更によりデッキボードの上下方向の高さ位置を2段に切り替えることができる。したがって、デッキボードを他の場所に保管しなければならないという煩わしさが無い。

【0005】さらに、第2の発明は、請求項2記載のとおりである。上記第2の発明により、前記第1のデッキボード部位と第2のデッキボード部位との間の屈折回動可能連結および第1のデッキボード部位の基盤部材に対する起立可能連結は、4リンク機構を用いて行われ、この4リンク機構には基盤部材に対する第1のデッキボード部位の起立回動に連動して第1のデッキボード部位に対して第2のデッキボード部位を前記起立回動と反対方向に強制的に屈折させる機構が組み込まれている。この第2の発明によれば、第1のデッキボード部位の起立回動時に、第2のデッキボード部位が起立回動とは反対方向に強制的に屈折されるので、第2のデッキボード部位の第2の位置状態への操作を容易に行うことができる。

【0006】さらに、第3の発明は、請求項3記載のとおりである。上記第3の発明により、前記4リンク機構は、第1リンク部材、第2リンク部材、第3リンク部材および第4リンク部材を順次回動可能に連結したものであり、前記第1リンク部材は前記基盤部材に固定され、前記第2リンク部材が前記第1のデッキボード部位を支え、前記第3リンク部材が前記第2のデッキボード部位を支えている。この第3の発明によれば、前記第2のデッキボード部位の先端部を手で持上げると、前記第1のデッキボード部位と前記第2のデッキボード部位は前記第1のデッキボード部位の基部を回転中心として上方に回転する。

【0007】そして、ある程度回転すると、前記第4リンク部材と前記第1リンク部材との連結用長孔もしくは前記第4リンク部材と前記第3リンク部材との連結用長孔に係合された前記第1リンク部材もしくは前記第3リンク部材の連結部材が前記長孔の長手方向に移動して、前記第4リンク部材における前記第1リンク部材の連結位置と前記第3リンク部材の連結位置との間隔が最大になった時点で、前記第2リンク部材に対して前記第3リンク部材が下方に屈折し始める。このため、それ以後は、前記第2のデッキボード部位が前記第1のデッキボード部位に対して下方に屈折するので、前記第1のデッキボード部位を前記基盤部材から起立した状態にして、前記第2のデッキボード部位を前記第1のデッキボード

部位で支えるようにすることが容易になる。

【0008】さらに、第4の発明は、請求項4記載のとおりである。上記第4の発明により、前記4リンク機構に組み込まれる第1デッキボード部位に対して第2のデッキボード部位を前記起立回動と反対方向に強制的に屈折させる機構は、第1の位置状態から第2の位置状態に回動操作するとき第2のデッキボード部位が第1のデッキボード部位に対して自重荷重を集中する位置を押圧するカム機構とされている。この第4の発明によれば、第1のデッキボード部位に対する第2のデッキボード部位の強制的屈折を、第1のデッキボード部位に対して第2のデッキボード部位の自重荷重が集中する位置をカム押圧して行うようにしたので、その屈折がより容易に行うことができる。

【0009】さらに、第5の発明は、請求項5記載のとおりである。上記第5の発明により、前記4リンク機構は、第5リンク部材、第6リンク部材、第7リンク部材および第8リンク部材を順次回動可能に連結したものであり、前記第5リンク部材は前記基盤部材に固定され、前記第6リンク部材が前記デッキボードの第1のデッキボード部位を支えている。この第5の発明によれば、前記第2のデッキボード部位の先端部を手で持上げると、前記第1のデッキボード部位と前記第2のデッキボード部位は前記第1のデッキボード部位の基部を回転中心として上方に回転する。

【0010】そして、ある程度回転すると、前記第7リンク部材のうち前記第6リンク部材側端部に形成されたカムが前記第2のデッキボード部位の基部を上方に押し始めるので、この時点で、前記第6リンク部材に対して前記第2のデッキボード部位が下方に屈折し始める。このため、それ以後は、前記第2のデッキボード部位が前記第1のデッキボード部位に対して下方に屈折するので、前記第1のデッキボード部位を前記基盤部材から起立した状態にして、前記第2のデッキボード部位を前記第1のデッキボード部位で支えるようにすることが容易になる。

【0011】

【発明の実施の形態】図1は、本願発明の実施の形態に係るデッキボードを示す。図1において、デッキボード10は、板状の第1のデッキボード部位11および第2のデッキボード部位12を備えている。第1のデッキボード部位11および第2のデッキボード部位12は、全体として一枚の板状になって車両40のフロア41上に位置する状態（実線で示す第1の位置状態）と、第2のデッキボード部位12が、フロア41に対して起立した状態の第1のデッキボード部位11により支えられフロア41より所定高さの位置にある状態（二点鎖線で示す第2の位置状態）をとることができる。なお、フロア41が本発明でいう基盤部材となっている。このフロア41にはデッキボード10が第2の位置状態を採ったとき

の見栄えを確保するために、カーペット等が敷設されるのが好ましい。

【0012】第1のデッキボード部位11の基部11aが車両40のフロア41に対して起立可能になるように回動可能に連結されている。この連結は、図1に符号20で示される第1の4リンク機構の下部個所で行われている。第2のデッキボード部位12の基部12aと第1のデッキボード部位11の先端部11bは屈折回動可能に連結されている。この連結は、第1の4リンク機構20の上部個所で行われている。第1の4リンク機構20の詳細は、後述する。デッキボード10の第1の位置状態では、第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12とが連結した一枚の板状になって載置され、このとき、両デッキボード部位11、12はフロア41上に載置されている。さらに、第2の位置状態では、第1のデッキボード部位11がフロア41に対して起立した状態になり、第2のデッキボード部位12が第1のデッキボード部位11で支えられフロア41に対して所定高さの位置状態になる。

【0013】前記第2の位置状態では、第2のデッキボード部位12の先端部12bに形成された張出部12cが右後輪のホイールハウス42に形成された係合部43に嵌合してロックされる。ここで、張出部12cは車両40の車幅方向に張り出した部分であり、デッキボード10の第1の位置状態（段落0011参照）では、フロア41のうち右後輪のホイールハウス42の後方のフロア41上に位置するが、第2の位置状態（段落0011参照）では、右後輪のホイールハウス42の係合部43上に位置する。

【0014】同様に、張出部12dを図示しない左後輪のホイールハウスの係合部（係合部43に相当する。）に嵌合してロックすることができる。なお、第2の位置状態から第1の位置状態に戻すときは、前記係合部の嵌合を外してロックを解除する。13はデッキボード10の上面であり、14（図3参照）は、デッキボード10の下面である。下面14は図示しないリブで補強した状態でもよい。

【0015】なお、前記第2の位置状態にて、第2のデッキボード部位12の上面13がホイールハウス42の上面と同じ高さになるようにすると、荷物の積載が一層容易になる。すなわち、デッキボード10の第2の位置状態では第1の位置状態に比べ、ホイールハウス42の幅分だけ広くなり、それだけ横幅を有効に利用できるようになる。たとえば、ゴルフバッグ等をゆとりを持って横置きすることができるようになる。また、44は車両40のバックドアが配置される位置であり、45は車両40のサイドトリムである。

【0016】図2は、図1の第1の4リンク機構20を示す。図2において、第1の4リンク機構20は、第1リンク部材21、第2リンク部材22、第3リンク部材

23および第4リンク部材24を順次回動可能に連結したものである。軸25、26、27、28は、それぞれ第1リンク部材21と第2リンク部材22を回動可能に連結する軸、第2リンク部材22と第3リンク部材23を回動可能に連結する軸、第3リンク部材23と第4リンク部材24を回動可能に連結する軸、第4リンク部材24と第1リンク部材21を回動可能に連結する軸である。

【0017】第1リンク部材21の基部21aは、基部21aの孔21bを介して図示しないボルト等によりフロア41（図1参照）に固定される。第2リンク部材22がデッキボード10の第1のデッキボード部位11（図1参照）に固定される。第2リンク部材22の孔22a、22bは、第1のデッキボード部位11を第2リンク部材22に取付ける場合のねじ孔である。第3リンク部材23がデッキボード10の第2のデッキボード部位12に固定される。第3リンク部材23の孔23a、23bは、第2のデッキボード部位12を第3リンク部材23に取付ける場合のねじ孔である。第1の4リンク機構20は、図1に示すように、第1のデッキボード部位11に対して平行に2本配設された状態で取付けられている。

【0018】第4リンク部材24と第3リンク部材23との連結は、第4リンク部材24の一端に穿設された長孔24aに軸27が嵌合することにより行われている。長孔24aは、第4リンク部材24の長手方向の長孔として形成されている。第4リンク部材24の他端は、第1リンク部材21と軸28により回動可能に連結されている。これにより、第4リンク部材24と第3リンク部材23との連結は、長孔24aにより長孔24aの長さ分だけ長手方向に相対的移動が可能とされている。なお、長孔24aの機能を第4リンク部材24の他端に持たせることもできる。この場合には、軸28との嵌合を長孔とすればよい。また、長孔24aの機能を軸27と軸28の両方に分担して持たせることもできる。この場合には、軸27と軸28との両方の嵌合を長孔とするものである。

【0019】図3は、図2の第1の4リンク機構20の動作を説明している。図3において、実線で示す状態は、デッキボード10の第1の位置状態である（段落0011参照）。第1のデッキボード部位11がフロア41に対して立ち上がる過程を、二点鎖線で3段階に示している。二点鎖線で示す第1の4リンク機構20がフロア41に対して直立した状態は、前記第2の位置状態である（段落0011参照）。前記第1の位置状態において、第2のデッキボード部位12の先端部12b（図1参照）を手で持上げると、第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12は軸25を回転中心として上方に回動する。

【0020】デッキボード10の上方への回動の際、第

10

20

30

40

50

4リンク部材24の長孔24aと第3リンク部材23の軸27との嵌合状態の位置関係は、第1の位置状態においては図3に良く示されているように相対的に移動可能な位置状態にあって、第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12とは自重で第1の4リンク機構20上に連続して配置された状態で一体となって上方に回転していく。

【0021】ある程度上方に回転すると、図3で見て、軸27が長孔24aの右端面に当接した状態となって、両者は相対移動できない位置関係となる。この状態からさらに上方に回転すると、第4リンク部材24によって第3リンク部材23を引張る状態となって、第3リンク部材23は軸26を軸心として時計回り方向に回転する。この回転状態が図3で見て回転途中として示した図である。この回転状態は、第1のデッキボード部位11に対して第2のデッキボード部位12を徐々に屈折状態とすることになって、第2のデッキボード部位12の前進動作を容易とする。なお、この動作における第2のデッキボード部位12の第1のデッキボード部位11に対する屈折方向は、第1のデッキボード部位11の起立回

動方向とは反対方向となっている。

【0022】さらに回転を進めて、第1のデッキボード部位11がフロア41に対して起立した状態となると、第2のデッキボード部位12は第2リンク部材22の長さの高さ位置でフロア41に対してほぼ平行状態に位置させられて、第2の位置状態を確立する。この状態では、前述したように、第2のデッキボード部位12に形成された張出部12cがホイールハウス42に形成された係合部43に嵌合した状態にある。

【0023】なお、前述の長孔24aと軸27との相対移動は、長孔24aが描く円弧軌跡と軸28が描く円弧軌跡の違いにより行われる。すなわち、長孔24aの円弧軌跡は軸28を中心として描かれ、軸27の円弧軌跡は軸25を中心として描かれる。そして、軸28と軸25とはオフセットして位置していることから、軸27の円弧より長孔24aの円弧の方が小さくなる。この結果、長孔24aの最外端が描く円弧軌跡より軸27が描く円弧軌跡が外方となることにより第3リンク部材23は第4リンク部材24より引張られた状態となって、軸26を軸心として時計回り方向に回転するのである。

【0024】上述した第1の4リンク機構20を用いた実施の形態では、デッキボード10を自動車等の車両の荷物室から外部に取り外すことなく、デッキボード10の配置変更のみで第1の位置状態と第2の位置状態の2つの位置（段落0011参照）を採ることができる。また、デッキボード10を第1の位置状態から第2の位置状態に位置変更する際、第1の4リンク機構20により第2のデッキボード部位12を第1のデッキボード部位11に対して強制的に屈折させるため、第2のデッキボード部位12の前進動作の回転を容易に行うことができ

る。

【0025】図4は、図2の第1の4リンク機構20の変形例となる第2の4リンク機構50を示す。図4において、第2の4リンク機構50は、第5リンク部材51、第6リンク部材52、第7リンク部材53および第8リンク部材54を順次回転可能に連結したものである。軸55、56、57、58は、それぞれ第5リンク部材51と第6リンク部材52を回転可能に連結する軸、第6リンク部材52と第7リンク部材53を回転可能に連結する軸、第7リンク部材53と第8リンク部材54を回転可能に連結する軸、第8リンク部材54と第5リンク部材51を回転可能に連結する軸である。

【0026】第5リンク部材51は、第1リンク部材21に相当し（図2参照）、フロア41に固定されている。第6リンク部材52は、第2リンク部材22に相当し（図2参照）、デッキボード10の第1のデッキボード部位11（図1参照）に固定されている。第7リンク部材53は、第6リンク部材52の側部に配置されて軸56により取付けられている。第7リンク部材53の図4で見て左端部はカム61として構成されている。このカム61に対応して取付部材62の図4で見て左端部下面にはカム受面62aが形成されている。取付部材62は軸63により第6リンク部材52に回転自在に取付けられている。なお、取付部材62は第2のデッキボード部位12に固定される。

【0027】図5は、図4の第2の4リンク機構50の動作を説明している。図5において、実線で示す状態は、デッキボード10の第1の位置状態である（段落0011参照）。第1のデッキボード部位11がフロア41に対して立ち上がる過程は、二点鎖線で3段階に示されている。二点鎖線で示す第2の4リンク機構50がフロア41に対して直立した状態は、デッキボード10の第2の位置状態である（段落0011参照）。

【0028】前記第1の位置状態において、第2のデッキボード部位12の先端部12b（図1参照）を手で操作して持ち上げると、第1のデッキボード部位11と第2のデッキボード部位12は自重で第2の4リンク機構50上に連結して配置された状態で、軸55を回転中心として一体となって上方に回転する。そして、回転が進むにつれて、カム61が取付部材62のカム受面62aを押して、取付部材62を図5で見て時計回り方向に強制的に回転させる。この回転により、取付部材62に固定されている第2のデッキボード部位12は、第6リンク部材52に固定されている第1のデッキボード部位11に対して強制的に屈折させられる。

【0029】上述のカム61のカム受面62aの押圧動作は、第7リンク部材53が軸56を軸心として時計回り方向に回転することにより行われる。そして、この第7リンク部材53の時計回り方向回転は、第1のデッキボード部位11の起立回転に伴って行われる。その動作

原理は図 3 に示す作動の場合と実質的に同じであり、軸 5 7 が軸 5 8 を中心として描く円弧軌跡と実質的に同じであり、軸 5 7 が軸 5 8 を中心として描く円弧軌跡と、軸 5 6 が軸 5 5 を中心として描く円弧軌跡の違いによる。

【0030】 上述した変形例によれば、カム 6 1 によって押圧するカム受面 6 2 a の位置は、第 2 のデッキボード部位 1 2 の基部 1 2 a の先端位置となっている。この位置はデッキボード 1 0 を第 2 の位置状態とするため、手で持上げさせて回動操作するとき、第 2 のデッキボード部位 1 2 の自重荷重が集中している個所である。したがって、この位置を押圧して屈折回動させることは操作上有効となって、持上げ操作力を軽減することができる。場合によっては、片手で操作することも可能となる。

【0031】 図 6 は、図 1 の VI-VI 断面を拡大して示す。図 6 において、前記第 2 の位置状態（段落 0011 参照）にて、張出部 1 2 c の下面 1 4 側に設けられた棒状の固定部材 3 1 が係合部 4 3 の凹部 4 3 a に係合して、張出部 1 2 c が係合部 4 3 にロックされる。なお、張出部 1 2 c のうち二点鎖線で示す位置に位置調節機構 3 0 を設け、この位置調節機構 3 0 に固定部材 3 1 を出し入れするようにしてもよい。

【0032】 なお、上記実施の形態において、デッキボードは、板状であるが、これに限定されず、たとえば格子状板でもよい。

【0033】

【発明の効果】 本願の第 1 の発明によれば、必要な時に、デッキボードの第 2 のデッキボード部位を基盤部材とこの基盤部材より高い位置の 2 段に切り替えることが容易にできる。このため、デッキボードを車両の荷物室等に設置したときは、車両の荷物の容積、長さ等に応じて適宜配置変更して、有効に活用することができる。また、この発明によれば、従来のようにデッキボードを取り外す必要がないため、それに伴う煩わしさもない。

【0034】 さらに、第 2 の発明によれば、上記第 1 の発明の効果とともに、第 2 のデッキボード部位を第 1 のデッキボード部位に対して強制的に屈折させるため、第 2 の位置状態への配置変更を容易に行うことができる。

【0035】 さらに、第 3 の発明によれば、上記第 2 の

発明の効果とともに、デッキボードに組み込まれた 4 リンク機構のリンク部材の連結用長孔を利用してデッキボードの第 2 のデッキボード部位の上下方向の位置を 2 段化する操作が容易となる。

【0036】 さらに、第 4 の発明によれば、上記第 2 の発明の効果とともに、第 2 のデッキボード部位の自重荷重が集中する位置を屈折回動するためにカム押圧するものであるため、その操作力をより軽減させることができる。

【0037】 さらに、第 5 の発明によれば、上記第 4 の発明の効果とともに、上記第 4 の発明の 4 リンク機構とカム機構を容易に構成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本願発明の実施の形態に係るデッキボードを示す斜視図である。

【図 2】 図 1 の実施の形態に使用する第 1 の 4 リンク機構を示す斜視図である。

【図 3】 図 2 の第 1 の 4 リンク機構の動作を説明する説明図である。

【図 4】 図 1 の実施の形態に使用する第 2 の 4 リンク機構を示す斜視図である。

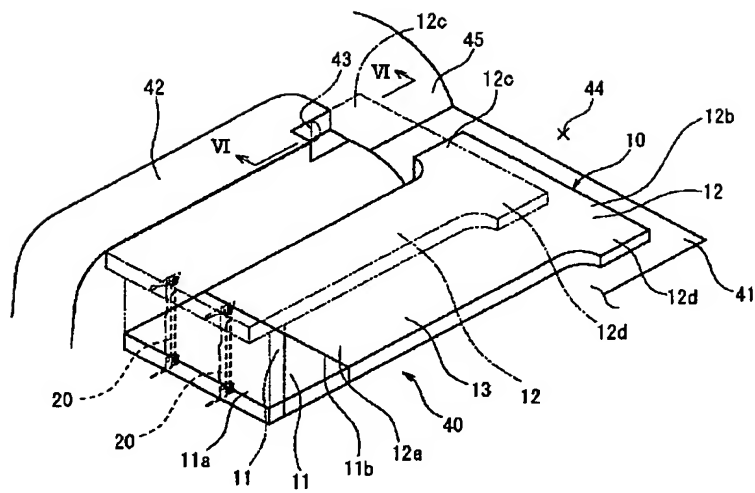
【図 5】 図 4 の第 2 の 4 リンク機構の動作を説明する説明図である。

【図 6】 図 1 の VI-VI 断面を拡大して示す断面図である。

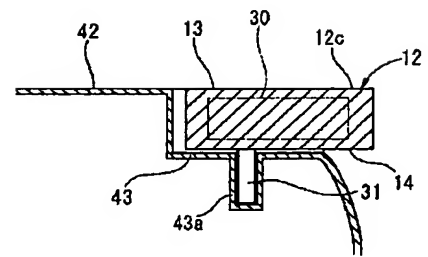
【符号の説明】

- 10 デッキボード
- 11 第 1 のデッキボード部位
- 11a 第 1 のデッキボード部位の基部
- 11b 第 1 のデッキボード部位の先端部
- 12 第 2 のデッキボード部位
- 12a 第 2 のデッキボード部位の基部
- 20 第 1 の 4 リンク機構
- 21～24 第 1 リンク部材～第 4 リンク部材
- 24a 第 4 リンク部材の長孔
- 40 車両
- 41 フロア（基盤部材）
- 50 第 2 の 4 リンク機構
- 51～54 第 5 リンク部材～第 8 リンク部材
- 61 カム

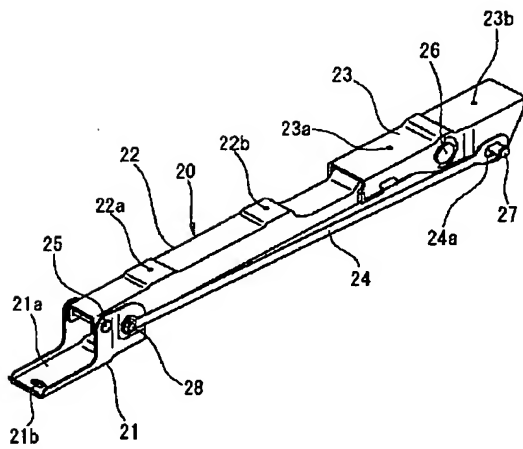
【図1】



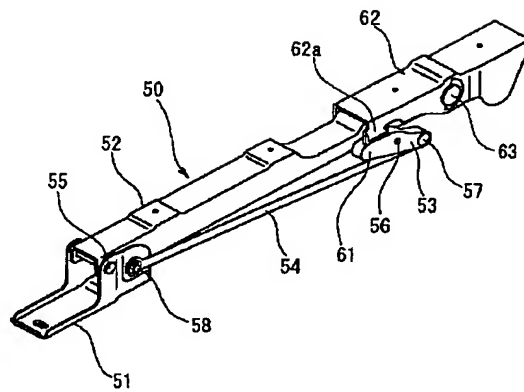
【図6】



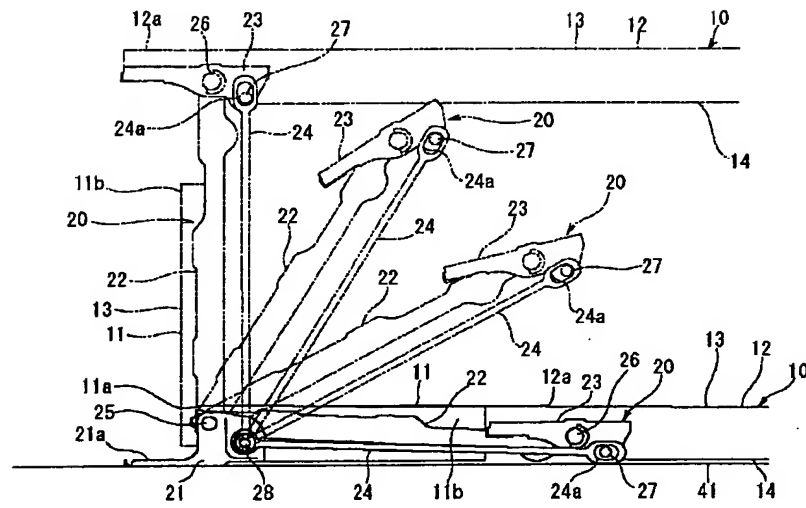
【図2】



【図4】



【図3】



【図5】

